



草と木で包む

ユー ジー

U. G. サトー作

ことうあつみ

後藤 九

さか い みちかず

酒井道一写真

ふくいんかんしょてん

福音館書店

昔から日本では、自然の中に見つけられる草や木を使って、食べるものを包む工夫をしてきました。笹の葉で水あめを包んだ新潟県の「笹あめ」は、熊笹の葉に含まれるペクチンという成分によって、腐らず長もちします。また、わらで卵を包む山形地方の「卵つと」は、五つの卵がしっかりとおさまっていて、持ち運びもしやすい、みごとな包み方です。ほかに、一枚の布を自由自在に変身させて使う風呂敷など、日本人がつくりあげてきた、生活の知恵にあふれた「包む文化」を紹介します。

